

令和 7 年度 広神東小学校 学校経営方針

校 長

新たな時代の授業改善は進み、ICT を活用した個別最適・協働的な学びは、日常化してきている。CS（コミュニティスクール）事業は 4 年目となり、より地域に根差し地域への愛着が深まる教育活動の充実が求められる。そして、心にゆとりある教職員の指導が、より良い教育には欠かせない。

当校は今年度創立 50 周年。特別な年である。記念事業を元に子どもの愛校心を高め、主体的学びを支援していく。そして地域に感謝しその教育力をより活用して子どもの活躍の場を作り、特別な年の教育活動を、見通しをもって創意工夫し確実にやっていく。

◆広 神 東 小 学 校 教 育 目 標

- すすんで学び くふうする子ども
- 力を合わせて やりぬく子ども
- 明るく 元気な子ども

◆R 7 年度重点目標

「意欲を持って 聴き合い・伝え合う子」(3 年次)

私は校長として学校経営で以下のスローガンを掲げ、創立 50 周年の広神東小教育目標・重点目標の具現化を図る。

◆学校経営スローガン：「あい」「たい」がある学校を みんなで創る

「あい」…「高め合い」「認め合い」「支え合い」 のびていく子どもたちと
「たい」…「学びたい」「通わせたい」「勤めたい」 保護者・地域・職員

- 1 高め合い学びたい学校 ～「意欲・かかわり」を育て、子どもの自己肯定感を高める～
- 2 認め合い通わせたい学校 ～子ども・保護者・地域の思いを認め、教育活動に生かす～
- 3 支え合い勤めたい学校 ～学び合う職員集団「チーム広神東」の充実を図り、
支え合ってゆとりある職場への働き方改革を行う～

子どもが高め合い学びたい学校を目指すために、お互いの違いや良さを認め合い高め合う活動を取り入れた学級づくりを行う。教育活動の中核である授業では「主体的・対話的で深い学び」の視点や研究主題を共有し、全職員で授業改善に取り組む。子どもの実態や声を生かした学習課題を掲げ、ICT の活用や、対話のある学びを生かして解決を進め、成果を認めることで、子どもの「自己肯定感」を高め、主体的にお互いの考えを繋げ深めていくような、たくましい力を身に付けさせる。

保護者・地域が認め合い通わせたい学校を目指すために、今年度は 50 周年事業を有効に活用する。保護者・地域・職員の願いを CS 委員会との連携や学校評価でみとる。50 年目の学校の様子を日々地域に伝え積極的に協力・支援を呼びかけ、愛校心を高める教育活動を多く取り入れていく。

職員が支え合い勤めたい学校を目指すために、各自が学校の顔との自覚をもち、助け合う集団でありたい。教職者として率先垂範し、専門性を伸ばし、生かしながら組織的に教育活動を行う。ワークライフバランスを互いに尊重し合い、働き方改革の視点からより明るい雰囲気のある学校を創る。

◆教育目標・重点目標具現の具体策

1 「高め合い学びたい学校」に向けて（子ども）

（１）魅力ある学校・学級づくり（授業や行事、休み時間を通した一人一人の居場所・絆作り）

- ・明るくあいさつを自分からできる、返せることを認め合い、推奨していく
- ・周年行事や学習活動において、めあてを立て、後に振り返りお互いに認め合うことで、達成感・成就感をもたせ、愛校心の育成や子ども自身の成長自覚につなげる
- ・いじめ・不登校・問題行動への的確・組織的な対応を図る。いじめ見逃しゼロ・未然防止を行う

（２）「主体的・対話的で深い学び」への授業改善と「基礎的な学力技能作り」の二刀流の推進

- ・「対話のある学び」や ICT を活用した授業改善を進め、「個別最適・協働的な学び」を目指す
- ・個別のドリル学習や家庭学習（ICT 活用を含む）を大事にし、基礎学力技能向上の取組継続を行う
- ・学力調査等の分析やチーム担任制を効果的に生かし、実態に応じ計画的な重点化指導を行う

（３）安心・安全な学習環境（認め合う仲間作りと個の状況に応じた心身の健康指導）

- ・web Q-U 調査の分析・活用をもとに、居心地のいい学校・学級集団に向け、特別活動の充実（異年齢若あゆグループ活動や各クラスの会社活動・高学年の児童会活動等）を行う
- ・特別支援教育の視点を重視し、「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」の立案、実践を行う。職員間で連携し一人一人の特性に応じた対応や交流学习、UDL や個別支援の工夫を行う
- ・健康な心と体作りのため、家庭と連携した継続・系統的な保健指導（元気アップ週間でのメディアや睡眠指導等）、状況に応じ専門機関（SSW、SC、要対協等）と連携した相談活動を行う

2 「認め合い通わせたい学校」に向けて（子ども・保護者・地域）

（１）笑顔あふれる教育実践（周年事業を含む）の情報発信（子どもたちの活動・活躍の姿の広報）

- ・HP「日々日記」の更新、廊下掲示写真「あゆっ子の1年」の作成、学校・学年・学級便りの充実

（２）保護者・地域との連携、学校の歴史を学ぶ活動の設定（保護者・地域・学校との関わりの充実）

- ・地域 Co と連携し、「休み時間の交流や児童見守り」「あゆっ子野菜プロジェクト」等を進め、50 周年に絡めて学校の歴史を知る・考える・伝える総合的な学習等の開発、充実、発展を図る
- ・周年事業を通じ、同窓会・地域・保護者等と連携し、見通しを持った活動を推進する

（３）保・小の接続や中学校区の連携の充実（「架け橋期」教育活動・小中連携活動の工夫）

- ・保育園での成長を生かす 1 年生授業の工夫や、各校の教育活動と子どもの実態を、中学校区で共通理解し、精選・見直しを含めて共に目指す姿や取組を明確化する（保小連絡会・地区教振研修）

3 「支え合い勤めたい学校」に向けて（職員）

（１）自分の得意分野を見つけ、磨き、「のりしろ」を出し合って支え合う職員集団

- ・市教育課程改編を生かし校務を精選（通知表精選等）・効率化し、自身の専門や指導技術を磨く
- ・全員が子どもの担任という共通認識で、子どものために仕事のヘルプを出し合える集団になる

（２）「市立学校における働き方改革の方針」に則って、各自のワークライフバランスを大切に

- ・校務終了予定時刻（19:00 以下）を各自設定し、その中で校務を計画的に行う
- ・子どもたち、職員個々の家族のために遠慮せず、リフレッシュ年休、早出遅出勤務等取得する

（３）ちょうほうれんそうかく（調整、報告、連絡、相談、確認）をし、お互いの仕事が見える職場に

- ・教育活動の重点化を目指し、積極的に精選アイデアを出し合う（教育活動振り返りシート活用）
- ・公務員としての自覚を忘れず、定期的研修を実施しながら自律的に非違行為防止に努める